

は全く違う土地に着いたんだと実感してから一カ月。みかんとすいかが畑に混在する風景にも慣れはじめた頃には研修終了となってしまうほど。

海外に出て日本を知りたいに、紀南で研修をさせていただいて大阪や市立堺病院を知り、さらには自分をj知る機会ともなりました。

大阪は交通が発達して便利で雑多で回りが知らない人だらけなこと。客観的データや論理的考察に集中して非言語コミュニケーションをいつもの間に失いつつあったこと。

人口の少ない地域の医療が地域医療なのではなく、紀南でも大阪のような街中でも医療は地域に合わせて形を変えること。考えてみると当たり前のことですが、需要に合わせて供給される医療の形態がこんなにも違うのかと実際の医療を目の当たりにして感じました。



大阪から五時間、阿田和駅を降りて見下ろすように広がる青い海と潮の香りに、大阪と



何が正しく何が間違っているのかではなく、大阪でも紀南でも地域が医療や医師をめぐっているんだという大きな発見がありました。堺病院での先輩方が私の中の医師像でありその中でどんな医師になるのかと考えていましたが、紀南で先生方と出会い、病院内での・人生を通しての医師としての在り方に多様性を持つことができました。初めてリハビリテーションの現場を見せていただいたという意味でも、紀南病院が第二の母校と呼べる存在です。

社会人になって、新たに人と出会うことで人を知り・自分を知り・学ぶ機会を与えて

へき地は医者ステキにする。



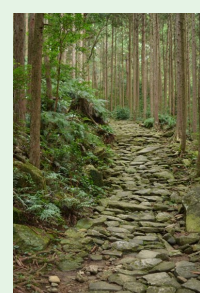
何かが間違ってはいないけれど、先生方も短く期間でしたが、先生方もはじめ、セラピストの方々・コメディカルの方々・関わってくださった皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございます。

《足立 清香》

紀南病院の皆様には御世話



《相川 浩一》



「僕」これは私の心に響いた、とあるコメディカルの方から聞いた言葉でした。以前にも入院されたいたり、また場合によっては同級生のご両親だったり、昔から知っている方が患者さんであり、その方々がより良い生活を今後送っていただけるようにお手伝いをする。もちろん入院前や前回の退院時の状況もよく知っている。このような話を伺い、地域医療の

「私の専門は神島です」。消化器内科でもない、循環器内科でもない、神島が専門。まさに、目から鱗であった。奥野先生が神島診療所にいらしたときの御言葉である、今も受け継がれている名言です。そういっ島の生活、地理、歴史での医療。住民全員が知り合いという中で診療をしていると、人々のbackgroundに自然に目が行く、いや、目を向けざるを得ない、あるいは目を向けたくなるという。そこで



「わかつていない」と思った時点で、「わかかっていない」では？」という思いも持ち合わせてしまう。地域医療とは、その地域に住まう人々の生活や心の中に入り込み、それを何年も何十年も重ねていくことで、醸成されていくものなのではないか。研修医として、ほんのわずかな期間地域の人々と触れ合っただけで、地域医療を根っこから理解・体得したと言えるものではない。

それでも、今までの僕が全く知らなかった「地域医療」という世界がここにあることは、確かに感じられる。奥野先生の巡回診療やタウンミーティングへの同行、あるいは神島診療所研修などから、その世界の妙を学び、面白さに気が付き、ヒントを得る毎日。残り一ヶ月、感性を最大限に鋭くして、地域医療の世界を生きていこうと思う。

《山崎 広貴》



編集部:
足立 清香 (編集長)
相川 浩一
長野 由佳
山崎 広貴

間、海に囲まれた静かだけれいな街です。紀南病院で過ごしていて、実家にいるような居心地の良さを感じます。それは地理的なこととあります。スタッフの方や患者さんの温かさのせいかもしれないです。東京に出てから忘れていた人と人との繋がりの大切さを改めて実感しました。こちらに来て自然と挨拶が増えたのもそのせいかと思います。

あとご高齢の方が多いためか、ここには無性におじいちゃんおばあちゃんに会いに行くようになります。親からよく言われる言葉で、「いつまでもあると思うな、親と金」親もそうですが、まずはおじいちゃんおばあちゃん孝行をしようと思えました。そのせいかかなと思います。

《長野 由佳》



「一面を見た気がしました。地域医療とは何か? 紀南病院で研修させていただいてまだ二週間ほどであり、まだまだ垣間見ていることは少なくほんの一面だと思いますが、やはりこの土地だからこそ感じる、医師不足といわれるこの地域に住まう人だからこその医療への思い、学生時代に何度か紀南病院で実習させていたでいて、その思いを多少なりとも感じ、必ずこの土地として地域の



記事を書くにあたって、今回地域研修で一番感じたことは懐かしさかもかもしれません。地元は千葉県御宿町という東京から電車です。三時

「親や親戚のように患者に對すべし」という教科書的な理念が、自然な形で実践されてきた。地域医療



は、親や親戚のように患者に對すべし」という教科書的な理念が、自然な形で実践されてきた。地域医療

